

モデレーター

吉田 安子（よしだ やすこ）
予防早期医療創成センター 特任教授

13:15～14:25 パネルディスカッションⅠ

■ 未来を担う子どもの健康

～現状とそれを取り巻く社会課題、そして新たな試みへ

愛知県立芸術大学 美術学部身体運動・健康科学研究室 教授名古屋大学 客員教授

石垣 享（いしがき とおる）氏

名古屋大学大学院 教育発達科学研究科 准教授

河野 明日香（かわの あすか）氏

常滑市教育委員会 生涯学習スポーツ課 課長補佐（体育振興チームリーダー）

堂本 大輔（どうもと だいすけ）氏

岐阜大学 教育学部 大学院教育学研究科 教授 学校法人春日学園理事長

春日 晃章（かすが こうしょう）氏

文部科学省によれば、現在の子どもの体力・運動能力の結果は、親世代の30年前と比べ、殆どのテスト項目において、子どもの世代が親の世代を下まわっている。体力は、人間の生活の基盤そのもので、健康の観点は勿論のこと、意欲や気力、充実感等とも関連し、子どもの健全な発達・成長を支える上で大変重要である。子どもの体力の低下は、社会全体の活力が失われるという事態に発展するといつても過言ではない。

本パネルディスカッションでは、愛知県の50年にわたる幼児の体格および運動能力の推移について調査した結果をもとに、愛知県も例外ではなく、特に幼児の体力は1999年から低下し続けているという事実を報告する。更にその社会的背景について、子ども達を取り巻く生活環境や家庭環境の観点から子ども達の身体能力低下の要因について考察・分析し、会場と問題意識を共有したい。

また、このような状況下、常滑市では自治体として子ども達の体力低下、運動離れに対して危機感を頂き、運動を通じて人とふれあうことの嬉しさや体を動かすことの楽しさを感じさせる新たな試みを始めており、その活動を紹介する。そして更に幼少年期の子ども達に対して教育現場で継続的な働きかけを行い、体力向上について確かな手応えを得ている岐阜県の実例を紹介する。会場とともに問題意識のみならず、未来を切り拓く希望を実感するパネルとしたい。

モデレーター

大山 慎太郎（おおやましんたろう）
予防早期医療創成センター 准教授

14:30～15:40 パネルディスカッションⅡ

■ 次世代の健康・医療スタートアップが拓く未来

STATION Ai株式会社 インキュベーション事業推進部 部長

中島 順也（なかじまじゅんや）氏

名古屋大学 学術研究・産学官連携推進本部

メディカルイノベーション推進室 特任教授 室長補佐

深井 昌克（ふかい まさかつ）氏

「STATION Ai（ステーションAi）」とは、2024年10月、名古屋市昭和区の鶴舞公園内に開設予定の日本最大のインキュベーション施設である。本パネルでは、施設開設に先駆けて設置されたStationAiインキュベータに所属する医療技術のイノベーションを牽引するスタートアップの活動を紹介し、これらの企業がいかにして医療業界に革新をもたらし、我々の生活を向上させるかを探求する。

Aiや個別化医療、デジタルセラピュティクスなどの次世代の最先端技術を紹介しながら、そのビジネスモデルにも迫る。これらの技術革新は、医療の未来を変革し、より効果的かつ個別化されたケアの実現を目指すだけでなく、これまで以上の医療エコシステムの拡張にも大変重要である。

医療従事者、研究者、業界関係者にとって、最先端の医療技術の知見の深化を狙う。

